

事務事業名	地域生活支援事業諸費	事業期間	～	年度	係内番号	18
担当部署	健康福祉部	地域福祉課	障害福祉係	連絡先	316	

政策番号	01	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中
			基本計画①	01	地域福祉計画	0000	複数の柱にまたがる事業		
			基本計画②	01	地域福祉計画	0000	複数の柱にまたがる事業		
			実行計画	04	障害者保健福祉計画	0000	複数の柱にまたがる事業		

予 算 事 業 名	地域生活支援事業諸費	会計コード	01	款	03	項	01	目	03	事業	09
-----------	------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
①ふれあいのつどい実行委員会への実施費用一部助成 ②「障害福祉のしおり」の作成 ③配食サービス事業の茅野市社会福祉協議会への委託 ④障害者福祉に寄与する団体への補助金交付 ⑤重度在宅障害者とその家族が対象の「希望の旅」事業（茅野市社会福祉協議会）への一部負担 ⑥家庭介護者に対するマッサージ券等の給付 ⑦法に基づく就労移行支援事業及び自立訓練事業の利用者への更生訓練費の支給。また、就職等により自立する者に対する就職支度金の支給。

現状と背景
(どうして)
①障害者と健常者の交流の場を設け、相互理解を深め、共に生きる福祉のまちづくりを推進するため ②手帳所持者に対し、多岐にわたるサービスや相談窓口等をわかりやすく周知を図る必要があるため ③一人暮らしの障害者が社会的に孤立する傾向にあるため配食により安否を確認する ④障害者福祉に寄与する団体の活動を支援し、市の福祉向上を図る ⑤重度の在宅障害者は、身体状況等から交流の機会を得難いため ⑥家庭介護者の介護による心身負担を軽減するため ⑦施設での訓練内容の充実により障害者の自立更生を図る。就職支度金の支給により社会復帰の促進が図られるため。

対象
(誰のために)
①ふれあいのつどい実行委員会②手帳の交付を受けた者③一人暮らし障害者等④障害者福祉に寄与する団体⑤市内の重度の在宅障害者⑥家庭介護者⑦施設に入所・通所している障害者

対象
(直接働きかけ)
①市内の障害児者及び市民②同上③茅野市社会福祉協議会④茅野市手をつなぐ育成会・茅野市手話サークル・茅野市星の会・R for I⑤市内の重度の在宅障害者とその家族⑥同上⑦同上

的意
(どんな状態にしたいか)
①障害に対する理解を深め、障害者の社会参加・共に生きる福祉のまちづくりを推進 ②手帳所持者が制度等を理解し利用促進に繋げる ③対象者の社会的孤立を解消する ④団体の活動内容の充実と安定を図る ⑤重度在宅障害者とその家族が、家族同士・当事者同士と交流する機会を得られる ⑥介護負担を軽減する ⑦障害者の自立更生を図る。また、就職により自立・社会復帰の促進を図る。

手段・方法
(どうやって)
①ふれあいのつどい実行委員会を設置し、当事者主体の団体として活動を支援する ②障害者手帳交付時等にしおりを用いて主な障害福祉制度や手続きについて交付窓口で説明する ③茅野市社会福祉協議会に委託し、昼食を365日利用者の居宅に配達するとともに当該利用者の安否確認をし、異常を認めるときは関係機関への連絡等を行う ④団体へ補助金を交付する ⑤茅野市社会福祉協議会が実施する「希望の旅」事業について内容を把握し、事業費の一部を負担する ⑥申請者に対しマッサージ券等を交付する。⑦障害者本人が申請し、交付決定後に支給する

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	ふれあいのつどい実行委員会の活動を支援する	実行委員会参加団体数	団体	ふれあいのつどい実行委員会の参加団体の数
2	手帳所持者に対して制度等の説明をする	しおり配付率	%	しおり配付者数/手帳交付者数	100	
3	対象者の活動の確保・利用者の見守り	サービス利用者数・会員数・参加者数	人	配食サービス利用者数・団体会員数・希望の旅参加者数を総和しニーズを把握する。	※	
変更履歴						
成果指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	1	ふれあいのつどいを開催し、共に生きる福祉のまちづくりを推進する	参加者数	人	ふれあいのつどいに参加した人数	400
2	障害福祉のしおりで説明することによって制度理解を促進する	対象者説明率	%	窓口対応時説明者数/しおり配付者数	100	
変更履歴						

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	財源内訳	事業費等(a)	円	2,102,000	1,904,300	2,546,000		
国庫支出金		円	215,630	200,000	328,000			
県支出金		円	107,660	99,000	164,000			
地方債		円						
その他特定財源		円						
	一般財源	円	1,778,710	1,605,300	2,054,000			
活動指標	実行委員会参加団体数	目標	16	16	16			
		実績	16	15				
	達成率	%	100.00	93.75	-	-	-	
	しおり配付率	目標	%	100	100	100		
		実績	%	100	100			
	達成率	%	100.00	100.00	-	-	-	
サービス利用者数・会員数・参加者数	目標	人	※	※	※			
	実績	人	189	124				
達成率	%	#VALUE!	#VALUE!	-	-	-		
成果指標	参加者数	目標	400	400	400			
		実績	400	400				
	達成率	%	100.00	100.00	-	-	-	
	対象者説明率	目標	%	100	100	100		
実績		%	100	100				
達成率	%	100.00	100.00	-	-	-		
備考	※対象者によって変動するため、目標は設定しない。							

事務事業名	地域生活支援事業諸費		事業期間	~	年度	係内番号	18
担当部署	健康福祉部	地域福祉課	障害福祉係		連絡先	316	

事務事業名	地域生活支援事業諸費		事業期間	~	年度	係内番号	18
担当部署	健康福祉部	地域福祉課	障害福祉係		連絡先		316

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成果） （動指） （要標） （因分） （析）		申請により決定するためどのくらいの申請があるか予測はつかみにくい、利用者に必要なサービスを提供することができた。	申請により決定するためどのくらいの申請があるか予測はつかみにくい、利用者に必要なサービスを提供することができた。		
価値（C） （H） （E） （C） （K）	成果	各事業により、市民に対し障害に対する理解を深めてもらい、障害者の社会参加、家族同士・障害者同士の交流の機会、一人暮らし等障害者の配食・安否確認等実施できた。	各事業により、市民に対し障害に対する理解を深めてもらい、障害者の社会参加、家族同士・障害者同士の交流の機会、一人暮らし等障害者の配食・安否確認等実施できた。			
	課題	障害に対する理解を深め、障害者の社会参加を促進し、共に生きる福祉のまちづくりを推進するというつどいの目的が各プログラムにおいて具現化出来るように、各プログラム内容や進行等の検討を重ねる必要がある。しおりについては、内容の精査や見直しについて関連部門との連携や確認が不可欠である。	障害に対する理解を深め、障害者の社会参加を促進し、共に生きる福祉のまちづくりを推進するというつどいの目的が各プログラムにおいて具現化出来るように、各プログラム内容や進行等の検討を重ねる必要がある。しおりについては、内容の精査や見直しについて関連部門との連携や確認が不可欠である。			
改革	成果	現状維持	現状維持			
	コスト	現状維持	現状維持			
改善の方向性（A） （C） （T）	改善の方向性	つどいについては、平成27年度より各プログラムにおいて参加者同士が自然に心身のふれあいが出来るように実行委員会が工夫を重ねて改善してきており、実行委員会・参加者から高い評価を得ることが出来ている。	ふれあいのつどいは、平成27年度から、参加者同士が自然に心身のふれあいが出来るプログラムを実行委員会が工夫・改善を続け、参加者から高い評価を得ているので引き続き充実に努める。			
	内容	しおりについては、障害当事者や家族への制度周知はもちろん、支援者や事業者・庁内関係窓口の職員等幅広く利用されており、今後も継続してゆく必要がある。	障害者のしおりは、障害当事者や家族への制度周知ができ、支援者や事業者・庁内関係職員等に幅広く利用されているため継続が必要。			
作成担当者	柏木さおり、清水 利恵	柏木さおり、清水 利恵				
最終評価責任者	井出 弘	井出 弘				
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日				

事務事業名	障害者相談支援事業	事業期間	～	年度	係内番号	10
担当部署	健康福祉部	地域福祉課	障害福祉係	連絡先	316	

政策 番号	01	基本計画①	01	地域福祉計画	0000	複数の柱にまたがる事業	中							
		基本計画②	01	地域福祉計画	0000	複数の柱にまたがる事業								
		実行計画	04	障害者保健福祉計画	0000	複数の柱にまたがる事業								
		項目	計画CD	計画名称	施策の柱ID	施策の柱の名称		実行計画の施策の柱における指標との関連度						
計	予 算 事 業 名	障害者相談支援事業費			会計コード	01	款	03	項	01	目	03	事業	02
画	事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	諏訪地域の障害者の自立と社会参加の促進を図ることを目的とし設置された、諏訪地域障害者自立支援センター「オアシス」の運営費を諏訪地域6市町村で負担する。また、諏訪圏域地域生活支援拠点等事業に伴う空床確保に対する予算措置として諏訪地域6市町村で負担する。												
P 目 的	現状と背景 (どうして)	在宅の障害者等に対し、福祉サービスの利用援助、社会資源の活用や社会生活力を高めるための支援、ピア・カウンセリング、介護相談及び情報提供等を総合的に行う。また、諏訪圏域地域生活支援拠点等事業により、地域のための拠点の整備や、地域の事業者が機能を分担して面的な支援を行う体制等の整備を推進する。												
	対 象	受 益 者 (誰のために)	障害者や家族。											
	対 象 (直接働きかける)	諏訪市（「オアシス」に直接運営費を交付している）に対して負担金を支払う。												
	意 図 (どんな状態にしたいか)	障害者や家族の地域における生活を支援し、障害者の自立と社会参加の促進を図る。												
L A	手 段 ・ 方 法 (どうやって)	諏訪地域の障害者の自立と社会参加のための相談や情報提供を総合的に行う「諏訪地域障害者自立支援センターオアシス」の運営費及び地域拠点事業に伴う空床確保に対する経費について、諏訪地域6市町村の申し合わせにより、諏訪市に対して相談業務等については均等割20%利用者割40%人口割40%、地域生活支援拠点等事業については均等割20%人口割80%で算出した負担金を支払う。												
	評価指標の作成	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
N	活動指標	1	オアシスにおける茅野市障害者の相談支援	延べ相談件数	件	年間延べ相談件数（茅野市）	※							
		2												
		3												
	変更履歴													
O	成果指標	成果・効果は何？		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値							
		1	茅野市民に対する相談支援	相談支援者数	人	実相談者数（茅野市）	※							
		2												
	変更履歴													

実 施 状 況 （ D O ）	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	事業費等(a)	円	9,781,128	9,183,737	9,754,000			
	財源内訳							
	国庫支出金	円	2,040,000	1,422,000	3,530,000			
	県支出金	円	1,020,000	711,000	1,765,000			
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円	6,721,128	7,050,737	4,459,000			
	活動指標	延べ相談件数	目標	※	※	※		
			実績	550	784			
		達成率	%	#VALUE!	#VALUE!	-	-	-
		-	目標	-				
	実績		-					
達成率	%	-	-	-	-	-		
成果指標	相談支援者数	目標	※	※	※			
		実績	110	110				
	達成率	%	#VALUE!	#VALUE!	-	-	-	
	-	目標	-					
実績		-						
達成率	%	-	-	-	-	-		
備 考	※対象者によって変動するため、目標値は設定しない。							

事務事業名	障害者相談支援事業		事業期間	~	年度	係内番号	10
担当部署	健康福祉部	地域福祉課	障害福祉係		連絡先	316	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	変果動指要標因分	変果動指要標因分	年度により利用者の人数に変動がある。	年度により利用者の人数に変動がある。		
価値	成果	オアシスの支援を受けたことにより利用者が自立した生活を送れた。また、平成30年度から地域生活支援拠点等事業が開始となり、今年度は茅野市の利用者はいなかったが6市町村内の緊急時ケースの対応を行い、地域生活継続のための支援が行えた。	オアシスの支援を受けたことにより利用者が自立した生活を送れた。今年度、地域生活支援拠点等事業の茅野市の利用者はいなかったが、6市町村内の緊急時ケースの対応を行い、地域生活継続のための支援が行えた。			
	課題	障害者の支援ニーズは高まっており、諏訪地域障害者自立支援センター「オアシス」には相談支援のみならず、諏訪圏域全体の課題解決等の調整機関としての役割が求められている。	障害者の支援ニーズは高まっており、諏訪地域障害者自立支援センター「オアシス」には相談支援のみならず、諏訪圏域全体の課題解決等の調整機関としての役割が求められている。			
改革	成果	現状維持	現状維持			
	コスト	現状維持	現状維持			
改善の方向性	成果	諏訪地域障害者自立支援センター「オアシス」で実施している各事業の評価を適正に実施していく。また、保健福祉サービスセンターとの役割分担や整合性を図りながら、諏訪圏域全体の障害福祉関連の調整機能が有機的に展開されるよう支援をしていく。	諏訪地域障害者自立支援センター「オアシス」で実施している各事業の評価を適正に実施していく。また、保健福祉サービスセンターとの役割分担や整合性を図りながら、諏訪圏域全体の障害福祉関連の調整機能が有機的に展開されるよう支援をしていく。			
	方向性の内容					
作成担当者	清水利恵	清水利恵				
最終評価責任者	井出 弘	井出 弘				
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日				